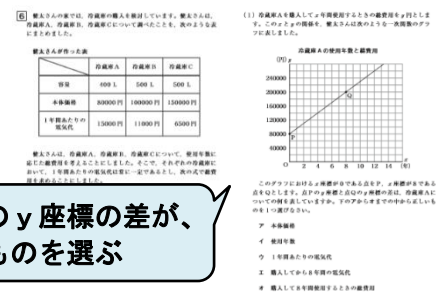


調査問題から見える「授業改善のポイント」＜中学校 数学＞

6 (1) グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題 [関数] <平均正答率 県 36.0% (全国比-2.8)>

調査結果の分析

- ・誤答のオ（購入して8年間使用するときの総費用）を選択した生徒は、全体の48.2%であった。
- ・グラフから読み取れる情報を、具体的な場面で捉えることに課題が見られる。



【授業改善のポイント】

○2つの数量の変化や対応について、数学的に表現できるように指導を工夫する

活動例・2つの数量の変化や対応を調べて捉えた特徴を、表、式、グラフを用いて説明する。  
 ・目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し表現する。

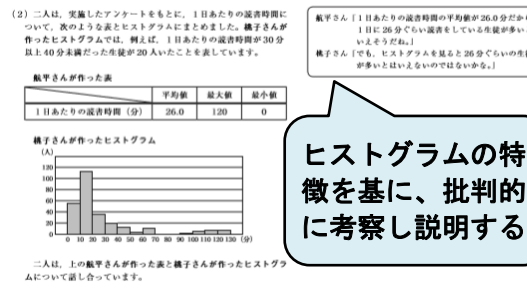
○与えられた情報を基にして、表、式、グラフを事象に即して解釈できるように指導を工夫する

活動例・表、式、グラフを相互に関連付けながら読み取ることでできる情報を確認し、解釈する。  
 ・解釈したことを、比較・検討し、伝え合う。

8 (2) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題 [資料の活用] <平均正答率 県 42.5% (全国比+1.7)>

調査結果の分析

- ・資料の特徴を説明し、結論までを適切に記述できた生徒は、全体の15.3%、資料の特徴の説明のみできた生徒は、全体の27.2%であった。また、全国より低いものの、無解答は18.5%であった。
- ・判断の理由を数学的な表現を用いて適切に説明することに課題が見られる。



【授業改善のポイント】

○資料の分布の様子を読み取ることができるよう指導を工夫する

活動例・傾向を捉えることができるようにデータを、表やヒストグラムに整理する。  
 ・目的に応じて適切な代表値を用いて、資料の傾向を捉える。

○資料の特徴や傾向を基にして、問題に対する結論をまとめることができるように指導を工夫する

活動例・統計的な問題解決の過程を振り返り、資料の収集の仕方や解決に用いた代表値の妥当性について検討する。  
 ・資料の分布の様子や代表値などを基にした説明を多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだして表現する。

詳しい学習活動については  
 「平成31年度（令和元年度）【中学校】  
 授業アイデア例」P.11～P.12参照

後日UP予定  
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkoku/kyokuryoku.html>